

平成 11 年 3 月期業績見通し及び中間配当の見送りについて

1. 業績見通し及び中間配当の見送りについて

当社の第 145 期（平成 11 年 3 月期）中間決算、及び年度の業績につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

当上半期のがわが国経済は、雇用情勢の悪化から個人消費は依然として低迷し、企業収益の悪化と金融システム不安等の影響により、設備投資も落ち込みが続くなど、極めて深刻な状況に直面しております。

鉄鋼業におきましても、国内需要の大幅な減退により、減産基調が続くとともに、鋼材市況も低迷するなど、経営環境は一層厳しさを増しております。

また、総合エンジニアリング事業におきましても、国内・海外市場ともに、発注量・価格両面において厳しい受注環境が続いております。

このような状況の下、当社は、徹底したコスト削減を含めた収益力の強化に全社をあげて取り組んでまいりましたが、予想を上回る事業環境の悪化により、当社の収益の悪化は避けられない見通しとなりました。

当中間期の損益状況につきましては、鉄鋼部門の販売数量の大幅な減少と輸出価格の低下等により、経常損益は 100 億円程度の損失と、前回見通しに比べ悪化する見込みであります。また、特別損益として子会社投資損失等を計上するため、当期損益は 260 億円程度の損失と、前回見通しを上回る損失となる見込みであります。

下半期につきましても、景気低迷が長引くなか、鉄鋼需要の急速な回復は見込めず、総合エンジニアリング部門でも受注環境の好転が期待できないことから、引き続き厳しい収益状況が続くものと予想しております。

このような状況から、年度の業績見通しにつきましても、経常損益は 100 億円程度の損失と、前回見通しに比べ大幅に悪化する見込みであり、子会社投資損失、早期退職損失等の特別損益を加えた当期損益は 880 億円程度の損失となる見込みであります。

以上の状況を踏まえ、当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら、本日の取締役会において、その実施を見送らせていただくことに決定いたしましたのでお知らせいたします。

		売 上 高	経 常 利 益	当 期 利 益
今 回 見 通 し	当中間期	4,700 億円	100 億円	260 億円
	通 期	10,800 億円	100 億円	880 億円
前 回 見 通 し (平成 10 年 5 月 21 日)	当中間期	4,700 億円	50 億円	50 億円
	通 期	11,100 億円	100 億円	50 億円
(参 考) 前 期 実 績	中 間 期	5,079 億円	110 億円	112 億円
	通 期	11,120 億円	299 億円	111 億円

2. 連結業績見通し

連結決算につきましては、厳しい経営環境の下、グループとしても懸命な収益改善に努めておりますが、国内外における鉄鋼事業の業績悪化を受け、経常損益は190億円程度の損失と、前回見通しに比べ大幅に悪化する見込みであります。また、特別損益として子会社での事業整理に伴う損失等を計上するため、当期損益は930億円程度の損失となる見込みであります。

	売上高	経常利益	当期利益
今回見通し	18,900億円	190億円	930億円
前回見通し (平成10年5月21日)	19,230億円	280億円	60億円
(参考)前期実績	19,343億円	372億円	142億円

3. 業績回復に向けての今後の取り組み

以上の業績悪化を厳しく受け止め、かつてないこの難局に対処するため、当社といたしましては、現在推進中の事業構造の改革を更に広げ、連結経営を念頭に置いて、将来を見据えた大胆な「収益改善策」を迅速に進めてまいります。

この「収益改善策」につきましては、遅くとも年度内にはとりまとめる予定ですが、

当社のみならずグループ全体の事業構造の再構築

事業分野・商品毎に異なる競争条件に見合った事業運営

の視点で取り組んでおり、労務費を初めとする固定費削減、不採算事業からの撤退、更にはグループ一体となった収益力の強化など、一部施策については、既に実施しているところであります。

これら「収益改善策」の迅速かつ着実な実行により、フロー収益を早期に改善するとともに、土地など保有資産の有効活用を図り、「収益改善策」実施に伴う一時的な損失の解消を図る所存ですので、皆様におかれましては、なにとぞ御理解と御協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

- 以 上 -

本件に関するお問い合わせは、下記へお願い致します。

N K K 秘書部広報企画室

TEL 03 - 3217 - 2140